

平成 28 年度採択 大学の世界展開力強化事業
一日中韓の大学間連携による
インフラストラクチャーを支える人材育成事業—
外部評価報告書

平成 30 年 9 月

長崎大学大学院工学研究科

目 次

委員長 ご挨拶	P. 1
1. 外部評価の目的	P. 2
2. 外部評価委員会委員の名簿	P. 2
3. 実施期間	P. 2
4. 議事内容	P. 2
4-1 開会	P. 3
4-2 委員自己紹介	P. 3
4-3 事業の概要説明	P. 3
4-4 質疑応答等	P. 9
4-5 まとめ・閉会	P. 15
4-6 配布資料一覧	P. 16
5. 概要説明資料	P. 17
6. 本事業5年間スケジュール	P. 38
7. 中間評価調書（公表ページのみ抜粋）	P. 39
8. 世界展開力強化事業HPニュース	P. 42

キャンパス・アジア事業の推進「大学の世界展開力強化事業」
一日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業—

外部評価結果の公表に際して

平成 28 年度（2016 年度）より長崎大学大学院工学研究科が始めた文部科学省『キャンパス・アジア（CA）事業の推進』大学の世界展開力強化事業「日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業」は、アジア各国のインフラストラクチャー（以降、“インフラ”と略称する。）整備を技術面から支える人材を育成するために、①構造工学分野（橋梁・道路など）、②地盤工学分野（トンネル・地下構造物など）及び③水環境工学分野（ダム、浄水場/下水処理場など）に代表される土木インフラ分野を対象とし、インフラの機能低下がアジア各国の社会経済環境に及ぼす悪影響を低減するための専門的知識や先進技術を習得させると併に、日本の優れた維持管理技術をアジアの国々等に展開することができる高度な専門性を身につけたインフラ技術者を山東大学（中国）、成均館大学校（韓国）及び長崎大学（日本）の大学院博士前期課程（修士課程）で育成するものである。

長崎大学大学院工学研究科の博士前期課程（総合工学専攻）は、社会環境デザイン工学コース、構造工学コース及び国際水環境工学コース等に代表される 7 つのコースから構成されている。先ず、これらインフラ整備に関連するコースに中国・韓国からの特別聴講学生を受け入れるとともに、公共機関や企業との緊密な連携の下で、アジア諸国のインフラ整備・維持管理に貢献できる実践的能力に優れた高度専門職業人を育成する。次いで、これらのコースに所属する日本人学生を中国・韓国の大学に派遣して、他国のインフラ整備に関する講義・演習科目（英語による講義）等を履修させるとともに、単位互換制度に基づく短期留学によってアジア諸国のインフラ整備・維持管理に貢献できるグローバルな視点を有した人材を育成する。さらに、3 つの大学で開講している専門教育カリキュラム及び修士論文研究に加えて、共通科目として【インフラ維持管理工学】カリキュラムを新設するとともに、平成 31 年度までにダブル・ディグリー制度を構築して、日中韓の大学間の学生交流（長期留学）を更に促進していくことになっている。

インフラに関する外部有識者が長崎大学大学院工学研究科を訪れて、当該事業の進捗状況についてお聞きするのは、今回が初めてである。平成 28 年 11 月から平成 30 年 7 月までの約 1 年 8 か月間の事業の進捗状況を確認させて頂くとともに、当該事業がさらに良い方向へ発展するよう長崎大学の先生達と議論した。本報告書はその概要をとりまとめたものである。

原爆や長崎大水害という大きな被災経験のある長崎で、インフラ人材を育成しようとする取組みは、大変有意義で時宜を得たプロジェクトであると高く評価している。また、約 400 年前から日本の窓口になった長崎で、人材を育成しよう、あるいは拠点を作ろうという観点は、長崎大学にとって極めて相応しい方向である。最後に、当該事業に携わっておられる先生方については、このような質的に困難で、大変手間がかかるプロジェクトに対して、誠実に且つ着実に成果を出されていることを拝聴させて頂き、心より敬意を表する。こうした長崎大学の国際的な取り組みが広く認知・評価されるとともに、ひいては日本と中国・韓国との間の互恵関係が適切かつ持続的に構築されることを強く願っているところである。関係各位のさらなる御支援をお願い申し上げる次第である。

外部評価委員会
委員長 宮川 豊章
(京都大学 インフラシステムマネジメント研究拠点ユニット 特任教授)

1.外部評価の目的 2.外部評価委員会委員の名簿 3.実施期間 4.議事内容

1.外部評価の目的

文部科学省キャンパス・アジア事業の推進「大学の世界展開力強化事業」一日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業一における現段階までの取組、進捗状況を点検し、さらなる質の向上を図るため学外有識者による評価を行い、その意見を今後の教育研究活動に反映させ、事業実施及び事業終了後の継続方法の検討に役立てる。

2.外部評価委員会委員の名簿

宮川 豊章 委員長 京都大学インフラシステムマネジメント研究拠点ユニット
特任教授

中川 一 委員 京都大学防災研究所 防災研究所長 教授

清水 則一 委員 山口大学大学院創成科学研究科 教授

春日 昭夫 委員 三井住友建設(株)技術本部 執行役員副社長
技術本部長

新井 伸博 委員 大日本コンサルタント(株) 代表取締役社長
執行役員

3.実施期間

- ①平成 30 年 6 月 28 日 外部評価委員へ関係資料を事前送付
- ②平成 30 年 7 月 17 日 事前送付した資料（①）に対する意見等の締切日
- ③平成 30 年 7 月 23 日 第 1 回外部評価委員会の開催日

4.議事内容

●委員出席者

：宮川豊章 委員長、中川一 委員、清水則一 委員、春日昭夫 委員、
新井伸博 委員

●本学出席者

教員：清水康博 工学研究科長、畠田彰秀 教授、蒋宇静 教授、西川貴文 准教授、
鈴木誠二 准教授、石橋知也 准教授

事務：班長 1 名、主任 1 名、班員 4 名

●スケジュール

時 間：13：30～15：30
場 所：長崎大学工学部 1号館 1階研究科長室（文教キャンパス）
日 程：13：30～13：40 工学研究科長挨拶
13：40～13：50 参加者紹介
13：50～14：20 本事業の進捗状況説明
14：20～15：10 本事業に関する意見交換・質疑応答
15：10～15：30 まとめ、閉会

4－1 開会（清水研究科長）

平成 28 年度に採択された本事業は、前身となる「日中韓の大学間連携による水環境技術者育成」を水平展開させた取組みであり、「インフラストラクチャーの整備とそれらの維持管理技術に関する専門知識・技能を身につけたグローバルに活躍できる人材」を育成し、アジア諸国に輩出することが大きな目的です。皆様のお陰で本学におけるキャンパス・アジア事業推進の活動も順調に進んでおり、「日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業」として 3 年目を迎えることが出来ました。

しかしながら、文部科学省より交付された今年度の補助金額が、当初計画しておりました事業経費の積算額を大きく下回っており、予算的に大きな課題を抱えております。限られた予算の内で滞りなく当初の目的が達成されるよう、皆様のご助言を頂きながら事業を進めて参りたいと思います。今後とも皆様方のご指導のほど、どうぞ宜しくお願ひいたします。

4－2 委員自己紹介

宮川委員長、中川委員、清水委員、春日委員、新井委員

4－3 文部科学省キャンパス・アジア事業推進「大学の世界展開力強化事業」
—日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業—
概要説明（説明者 夢田教授）

●事業の背景

①『道守養成ユニット』の実施； 【平成 20 年度～平成 29 年度】

文部科学省、工学研究科インフラ長寿命化センター

②JICA『橋梁維持管理研修』の実施； 【平成 24 年 9 月～平成 30 年 10 月】
全世界対象、社会環境デザイン工学コース 英語による講義

③文部科学省〈日中韓の大学間連携による水環境技術者育成〉事業の実施；
「水環境の保全と持続的利用を支える技術の東アジアへの展開」

【平成 22 年度～平成 26 年度】

工学研究科 博士前期課程 国際水環境工学コース（純増 20 名）、

工学研究科 博士後期課程 国際水環境科学コース（純増 5 名）；

【平成 27 年 4 月～ 英語による講義】

④文部科学省「大学の世界展開力強化事業」の実施；日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業

【平成 28 年度～平成 32 年度 英語による講義】

⑤長崎大学の第 3 期中期目標・中期計画で基本的目標として掲げている「グローバル化する社会の要請に応じるべく、国際水準の教育、キャンパスの国際化、日本人学生の留学の飛躍的拡大の実現に向けた戦略的かつ包括的な教育改革を推進し、地域の課題を掘り下げる能力と多文化が共生する国際社会の現場で活躍する力を兼ね備えた長崎大学ブランド人材を育成する。」の実現に向けて貢献していく。

●事業の目的

日本、中国及び韓国の大学院生を対象として各国のインフラ整備を専門的知識や技術面から支える人材を育成する為に、①構造工学分野(橋梁 等)、②地盤工学分野(トンネル 等)、③水環境分野(ダム、上水/下水道 等)に代表される土木インフラ分野に限定して、インフラの機能低下がアジア各国の社会経済環境に及ぼす影響度を低減するための専門的知識や技術を習得させ、さらに、日本の優れた点検・維持管理技術をアジア各国の国々等に展開することができる高度な専門性を身につけた高度専門職業人（インフラ技術者）を大学院博士前期課程で育成する。

●事業の概要 - 養成する人材像 -

長崎大学大学院工学研究科の博士前期課程（総合工学専攻）のインフラ整備に関するコースに中国・韓国からの特別聴講学生を受け入れるとともに、同じコースに所属する日本人学生を中国・韓国の大学に派遣する。

また、アジア諸国にインフラ整備及びそれらの維持管理に関する課題の解決に貢献できる実践的能力に優れたインフラ技術者（高度専門職業人）を育成する。



<養成する人材像>

- ・インフラ整備とそれらの維持管理技術に関する専門知識・技能を身につけた人材
- ・個の技術に偏らずインフラ整備全般の必要知識を有するバランスのとれた人材
- ・グローバルに活躍できる高度専門職業人として必要な言語力（特に英語力）を身につけた人材

●事業の特徴

- ①共通のルールの下で教育の質を担保し、日中韓の三大学での協力体制を整えた。
 - ・長崎大学 大学院工学研究科
 - ・山東大学 土建与水利学院、環境科学与工程学院
 - ・成均館大学校 水資源専門大学院、建設環境工学院



②「教育の質保証」を伴った大学間交流の枠組形成

◇毎年、定期的に持ち回りで3大学の担当者会議を開催。さらに、3つの部会「交流プログラム企画部会」、「単位互換制度実施部会」及び「ダブル・ディグリー検討部会」を設けて、学位の取得スケジュール、修士論文の指導方法などについて具体的な協議を行った（平成28年度：3回、平成29年度：4回）。

◇3大学が協力体制を整備し、「インフラ人材育成コンソーシアム運営会議」を年に1回を開催することにしている。（平成28年度3月：1回、平成29年度3月：1回）。

→交流プログラムの基盤となる学術交流協定及び学生交流に関する覚書を締結。また、当初の計画よりも1年間前倒しでダブル・ディグリー制度に関する覚書と実施要項を締結し、学生の長期派遣ができるようになった。

◇「インフラ維持管理工学カリキュラム」の新設。

3大学がそれぞれ提供した科目に基づき、新たに3大学の得意とする分野のインフラ維持管理に関する共通カリキュラムを新設。 【シラバス参照】

平成 30 年度は山東大学と長崎大学でそれぞれ試行的に実施。
 成均館大学校では平成 31 年度の実施に向けて準備を進めることになった。
 3 大学の大学院生を対象として開講予定である。

●学生交流プログラムの実施

◇平成 28 年度の実績

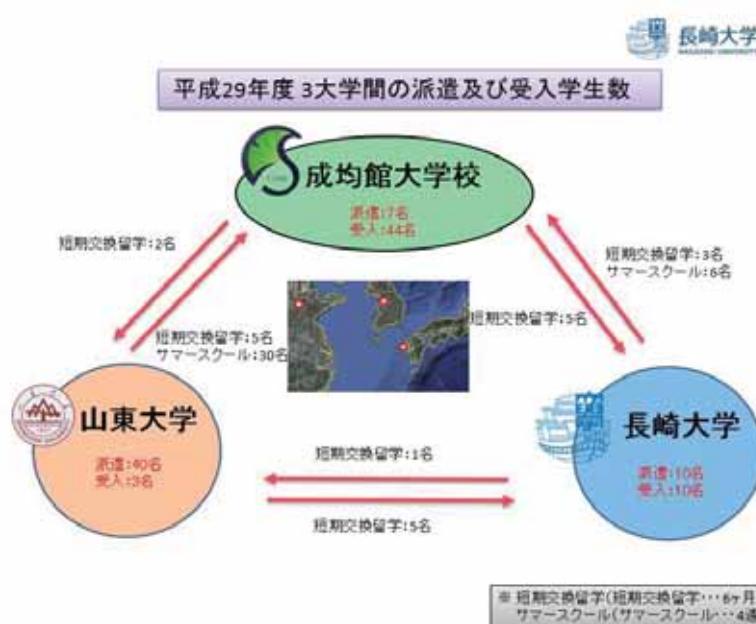
- ・工学研究科の大学院生（M1）を山東大学に 2 名、成均館大学校に 2 名、それぞれ 4 週間ずつ試行的に派遣を実施した。
- ・成均館大学校の留学生 3 名の受入を 2 週間実施した。
 → それぞれ、派遣先及び受入に関わる課題について、事前に把握することができた。

◇平成 29 年度の実績

- ・派遣学生
 〈サマースクール〉 成均館大学校へ 6 名

- 〈単位互換制度による短期留学〉 山東大学へ 1 名
 成均館大学校へ 3 名

- ・受入学生
 〈単位互換制度による短期留学〉 山東大学から 5 名
 成均館大学校から 5 名



→ 成均館大学校で開催されたサマースクールに参加した工学部 4 年生の学生が大学院工学研究科へ進学し、平成 30 年度には本事業の目玉となるダブル・ディグリー制度に基づき山東大学に長期留学することとなった。事前研修（サマースクール）を通して中国・

4.議事内容 (4-3 事業の概要説明)

韓国のインフラ整備の現状や課題等を学ぶとともに、海外への関心を喚起された好例であり、サマースクールの「呼び水的な効果」が現れたものと確信している。

- 平成 29 年度から本格的に展開した単位互換制度による短期留学については、派遣学生は、中国及び韓国のインフラ整備に関する講義や実習等を英語で履修し、平均 4 科目の単位（8~12 単位）を取得した。一方、受入学生については、修士論文題目に沿った研究室と指導教員の選定を行い、工学研究科におけるインフラに関連した英語の授業を履修し、平均 6 科目の単位（12 単位）を取得した。研究室の枠を越えた様々な文化交流も見られ、日本人学生とともにインフラ整備の現状と課題を把握してもらうことで、学生自身の修士論文に関連した研究と日常生活の両面でグローバル化を肌で感じてもらうことができた。
- さらに、全ての派遣・受入学生を対象に、現場観察に関するレポートや短期留学に関するプレゼンテーション、短期留学終了時の交流プログラムに関するアンケート調査などを実施した。その結果、多くの参加学生から「大変満足であった」との回答を得ることができ、極めて高い教育的効果が得られている。

●学生支援

◇派遣学生について

- ・留学に関する全面的なサポート
「学内説明会」の開催、留学費用の補助、ビザ取得手続きのサポート、渡航前オリエンテーション、渡航期間中のサポート
- ・留学前の語学研修
国際コーディネーターによる中国語、韓国語及び英語講座
- ・奨学金の支給（6 ヶ月分）
- ・学術交流協定に基づく検定料、入学料及び授業料の免除
- ・各大学の学生寮に半年間入居
- ・留学後の学内留学報告会の開催
- ・TOEIC 受験料の補助
- ・危機管理サービス（OSSMA）への加入

- 派遣学生； 毎年 4 月に学内説明会を開催することによって、両大学への派遣スケジュール及び出願書類や経済支援（奨学金、宿舎）等の内容を詳しく事前に確認することができ、安心した状態で短期留学の決断が可能となった。さらに、国際コーディネーターが中国語及び韓国語の初級レベルの語学研修を行い、異文化を体験し享受するための支援を行うことができた。また、留学中にも国際コーディネーターと指導教員による 24 時間の生活相談及びサポートの体制を整えた。

◇受入学生について

- ・奨学金の支給（6 ヶ月分）
日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度（協定受入）
- ・学術交流協定に基づく検定料、入学料及び授業料の免除
- ・国際コーディネーターによる生活全般の 24 時間サポート

4.議事内容 (4-3 事業の概要説明)

- ・民間のマンスリーマンションを借り上げ、半年間入居
 - ・成果発表会及び修了証書授与式の開催
- 受入学生；宿舎手配や在留資格取得のサポート、研究室配属、指導教員やチューターなど適切な支援体制を整えるとともに、講義開始前の9月中に事前教育プログラム（日本のインフラ建設現場の視察を含む）及び日本語研修を実施し、いち早く日本の大学の仕組みを把握させ日常生活における懸念事項を低減させることができた。

●平成30年度の進捗状況（計画）

- ◇平成28年度と平成29年度の実績を踏まえ、平成30年度も継続的に満足度の高い3つの学生交流プログラムを実施。特に本格的にダブル・ディグリー制度に基づく長期留学を開始。

【ダブル・ディグリー制度のスケジュール】

- ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会による本事業に関する中間評価。

【平成30年7月中旬 調書提出、10月中旬 面接評価】

- ◇第1回外部評価委員会の開催。

【平成30年7月23日】

- ◇中国教育部高度教育教学評価センターによる本事業のモニタリング。

【平成30年10月自己評価書提出、1月～3月 現地調査】

- ◇「インフラ維持管理工学カリキュラム」の試行的な実施。

●本事業の広報（情報の公開、成果の普及）

- ◇事業ホームページ（日本語、中国語、韓国語、英語）

<http://rijp.eng.nagasaki-u.ac.jp/>

- ◇事業パンフレット（日本語、英語）

→ホームページやパンフレット等による情報の発信によって、長崎大学の国際化戦略、学生の募集、交流プログラムの目的は基より、日本国内の生活情報及び中国・韓国の生活情報等を公開し、本学学生のみならず ASEAN 諸国の大学や受入学生のインターンシップ先企業、外部評価委員等へ発信することができた。

●今後の課題

- ◇共通ルールに基づく学生交流プログラム → ACTS の考え方の導入の可能性は。ACTS (ASEAN Credit Transfer System)、ECTS (European Credit Transfer System)、UMAP (アジア太平洋大学交流機構) における単位互換のスキーム 等

- ◇修士論文の指導体制 → 2大学の教員による「渡航前研究指導システム」

- ◇事業経費の確保 → 補助金の交付額が申請書より大きく下回っている
- ◇派遣学生の確保 → 英語力の不足が顕著なために、応募者増加に繋がらない。
- ◇英語によるインターンシップ受入企業の確保
→ 日本国内では、英語に基づくインターンシップの受入が難しい。

4-4 質疑応答等

●事前質問への回答および質疑応答

◇ 派遣学生の確保について

(新井委員) ・学生の留学機会のほとんどを大学から提供しているにも関わらず、派遣学生の数が増えない根本的な問題があるのか。

彌田 ・北朝鮮のミサイル発射問題等、様々な問題が重なり、前年度と同様に派遣学生の確保に苦戦している。なお、平成29年度単位互換制度に基づいて派遣したM2学生からは、1年遅かったらダブル・ディグリー制度に基づく長期留学に是非参加したかった、という嬉しい声があったのも事実。

(宮川委員長) ・学生の報告会を開催しているのか。
・派遣学生の数が増えないのは、留学先で日本人同士が固まることも要因の一つとして挙げられないか。

彌田 ・3年生及び4年生を対象として、学内の説明会や留学報告会を複数回に渡り開催した。派遣学生の体験談は、留学の誘致において効果的な方法の一つである。

(新井委員) ・会社の採用などでも、保護者の反応が大切なため、学生だけでなく保護者に対しても費用面のフォローやセキュリティー対策を含め、海外留学のメリットを明確にした資料をしっかりと作成し、必要に応じて説明会を開催する必要があるのではないか?
・英語力についても、プログラムの中で英語による研修メニューを取り入れる仕組み作りや1年間の留学によってTOEICのスコアが著しくアップしたこと、そして就職に有利であること等をもっとPRしたほうがいい。

彌田 ・文部科学省に確認したところ、他大学でも保護者説明会を行った事例がある。本学でも今後は保護者を含めた全体的な説明会の開催が必要だと考えている。

4.議事内容 (4-4 質疑応答等)

(中川委員) 派遣学生が是非行きたい、他学生と競争してでも行きたいと思わせる仕組みを取り入れるべき。学生に魅力を感じられるプログラム作りと周知が必要なのでは。

多 田

- ・山東大学は蒋先生の後輩（副学長）がおられ実績があるが、長崎大学全体の動きも鈍い。経済的な問題だけではなく、「なぜ」という踏み込んだ理由までは伺うことができない。
- ・出身国で固まってしまうという指摘はそのとおりである。派遣学生に関しては、両大学のヨーロッパやアメリカ出身の学生と積極的に様々な活動を行った報告も受けているが、学生の性格によるところが大きい。長崎大学でも、国際交流の妨げになる恐れがあるため出身国が同じ留学生同士で固まらないよう指導はしている。

蒋

- ・仕組みづくりは、ご指摘のように大切である。試みとして4~5年前に海外でのインターンシップ（1週間~2週間）に生活費の補助などの便宜を与えて誘導した。ある意味、強制的に科目を必修にした。5年一貫制の博士課程（修士&博士の5年間のコース）では、「海外研究」（3か月以上）を必修科目としているが、生活費の補助が課題となっている。

多 田

- ・その費用は3分の1が本人、3分の1が部局、3分の1が大学の負担としているが、大学に財源が乏しい現状で破綻しつつある。

(宮川委員長) 大学には体外的な責任もあると思うので是非頑張っていただきたい。

◇ 受入学生について

(宮川委員長) 中国、韓国から受け入れた学生に対する日本語の教育はどうに行っているのか。

(新井委員) 日本語の検定試験等を受験させているのか。

(新井委員) 言葉は武器にもなるし、日本語も世界にも通用するところがあるので。

朱

- ・当初は9月に集中的に研修を行った。学生からの要望があったこともあり、帰国予定の2月末まで教え続けた。
- ・受験時期も関係しているが、日本語能力検定試験は受験させていない。学校外でも使える会話を中心に日本語の研修を行った。

多 田

- ・合計19回、週に2~3回で1回当たり90分間程度の日本語研修を行った。

4.議事内容 (4-4 質疑応答等)

◇ ダブル・ディグリー制度について

- (清水委員) • 単位と修士論文について、それぞれの大学が要求する単位を修めなければならない。日本の場合は 10 単位ぐらい。論文は、どこかの大学でやればいい。
• なるべく、2 年間で修了できるというのは学生にとってメリットが大きい。

彌 田 • 基本的には、それぞれの大学で研究の指導を受けてもらうことが前提。一つのテーマについて派遣先の大学でも研究を行うが、まったく同じ論文を提出することは認められない。工学研究科では、同じデータでも方法論を変える、または、方法論は同じでもデータを変えるとのことが認められている。工学研究科の教務委員会の考え方も少しづつ変わりつつある。

- 問題は、どのような指導をしたら、学生が 2 年間で 2 本の修士論文を書けるかということについて、今後とも 3 大学で議論が必要不可欠である。
- 今年度に長崎大学から派遣する DD 学生は日本で 2 回ほど山東大学の担当者とマッチングをしているのが現状。今回の事例を参考にしつつ、今後はシステムを作っていくかなければならない。
- 分野によっては、意匠権や特許に関わるため慎重な意見を持たれる若い先生もいるため、慎重にやっていかざるを得ないと思っている。

- (清水委員) • 就職活動の問題もあるが、インターネットを活用すれば、現地に行かなくても授業が受けられるので、ぜひ検討してほしい。

彌 田 • 帰国後は就職活動が問題となる。留学中（1 月～3 月）に就活のピーク時期を迎えるため、書類作成等できることは海外にいる間に済ませ、場合によっては学生が一時帰国することも考えられる。
• インターネットによる受講は難しくはないが、中国は電波事情が心配で、次の課題もある。

蔣 • 今年度は初めての学生派遣となる。まずは実績作りしないと次に繋がらない。
• 指導教員の努力も必要だと思う。留学前に就職に向いている会社に早めにアタックしてみる等教員側もサポートをしている。

◇ 受講科目及び「インフラ維持管理工学カリキュラム」について

- (宮川委員長) • 科目に機械の内容があつたりするが、どういう制度あるいは制限枠組で作られているのか。例えば、内燃機関、建設機械というのも該当するというストーリーになっているのか。

4.議事内容 (4-4 質疑応答等)

彌 田

- ・工学研究科にあるコースであれば可能。講義に関しては基本的にすべてインフラに該当する。機械の先生でも、英語で授業ができる方がおられれば、教務委員長の了解を頂いた上で、ダブル・ディグリー制度や単位互換制度で授業を持っていただいている。今後は少しづつ、ご指摘のストーリーを組み立てていく予定である。

(宮川委員長)

- ・シラバスの設計は道守との関連性は。連携しているのか。
- ・本来は「作りこなすこと」と「使いこなすこと」は、両方を重視する必要があるが、場合によって今は使いこなすことしかできなくなっている。長崎大学の特徴である「道守養成ユニット」をシラバスに反映する必要があるのではないか?

(春日委員)

- ・インフラの建設についても教えることが必要と思う。作ることから学生に教えないといけない。その後、維持管理の重要性に繋がる。

彌 田

- ・ご指摘の件は、十分に認識している。まだ、関連性が十分詰められていないが、道守養成ユニットで実施していることがそのまま大学の教育として置き換えられるか、中身を精査する必要がある。なお、JICA の橋梁維持管理研修事業では、道守及び特定道守のレベルの教育は、かなりの数の実験や現場実習をカリキュラムに反映させている。

(清水委員)

- ・それぞれの国のガイドラインがかなり異なると思うが、インフラの維持管理に関わる十分なカリキュラムにはなっていない。国際基準（フィリックス）を重視し、3 大学でインフラに関する共通カリキュラムをもっと増やして、授業をシステム化して受講できるようにしたらどうか。
- ・後継者（教職員）が不在の場合でも継続できるよう、組織化して運用可能な段階まで仕上げておくべき、後はうまく運営していくのみ。
- ・インターネット等を活用して魅力を発信していく事も一つの方法である。

彌 田

- ・中国は、ダイナミックにいろいろなインフラ構造物を国内外で作っておられるが、成熟した日本とは異なり維持・管理という概念を忘れたわけではないものと推察される。インフラ構造物の新設に忙しい。インフラの維持・管理の重要性を高等教育で根付かせることが必要不可欠である。

◇ 事業終了後の継続性について

(中川委員)

- ・ここまで実績は高く評価するが、事業終了後もこの実績を活用できないと学生にとっても教員にとっても勿体ない。継続的に長崎大学あるいは工学研究科でもそれらを生かして取り込んで欲しい。
- ・大学間の MOU を締結しているのであれば、研究者や学生にも善処してできないか。

4.議事内容 (4-4 質疑応答等)

- 彌 田 ・ダブル・ディグリー制度に関する覚書が有効の間は、大学から奨学金と宿舎代を提供する。その後も、学術交流協定制度があるため、5名の授業料及び検定料が免除。事業が終了するまでに成果を上げて、自費でもダブル・ディグリー制度で長崎大学に来ていただけるようにしたい。
- (宮川委員長) ・長崎大学全体のイメージにも関わってくるため、積極的に取り込んで欲しい。
- 彌 田 ・留学生専用の宿舎の新設や正規学生・長期滞在学生を優先的に入居させてもらえるように長崎大学では努力が必要だと感じている。
- (春日委員) ・この事業背景にもあるように、インフラや道守に関わる学生の育成。今の日本の若者は危機感がない、海外よりは安定した国内が良い。反面、中国や韓国からの留学生は日本や海外に出たい傾向がある。それをうまく活用し、受入学生にこの素晴らしい事業を知ってもらい、途上国の方々に広めてもらい道守養成ユニットをアジアに普及させるため、戦略的な観点を徹底してはどうか。
- 彌 田 ・現在、工学研究科・工学部は学生が減少傾向にあるが、大学の所在地は西の果てに位置し、アジア・東南アジアに近いため、韓国、さらに人口13億人の中国から優秀な学生を招致して、補填するという考え方もある。
- 蔣 ・受け入れる先生の努力によるところが大きい。

◇ 本事業の経費と今後の課題について

- (清水委員) ・事業の目的は拠点づくりなのか。人材育成が目的なのか。
- 彌 田 ・人材育成の拠点としたいため、拠点づくりが目的と言える。拠点形成後、先生方の次の新しい展開が見えてくると個人的には考えている。後継者(教職員)につなげてもらいたい。
- (清水委員) ・これまでの実績や成果が事業に集約されて組織化されているか。それぞれの大学が、持ち寄れるものを出しているのか。
・組織化してうまく運営するため、インターネットのシステムを導入できないか。
- 彌 田 ・工学研究科ではポリコム(テレビ会議システム)を所有しており、日本にいながら他国の講義を履修する事が可能である。しかし、山東大学(中国)との間では通信状況が良いとは言えず、現段階でそのような受講方法を取り入れる事は難しいが、今後の課題としてぜひ検討していきたい。

4.議事内容 (4-4 質疑応答等)

- (清水委員) • 国際水環境工学コースでの人集めは、JICA が人を集めているのか。それを将来一体化となっていくのか。将来的な課題になるか…？
• この事業は、本年度を含めて残り 3 年間であるが、今後の想定される課題（予算）については如何に対処されるのか。
- 彌 田 • 東南アジア等については、国際水環境工学コースの専任教員が個人的なパイプを持っており、これを軸にして入試の説明会及び大学の試験会場で渡日前入試（面談を含む）を実施している。渡日前入試を行うことで、確実に JASSO の奨学金（予約制、月額 48,000 円）を 1 年間だけもらえる。
- (宮川委員長) • 水環境や JICA 事業で培ったノウハウをうまく活用できたら一番良いと思う。交流プログラムの終了後のことを見据えて考える必要がある。
- 彌 田 • 一体化することは難しいと思うが、残っている先生方の将来の方向性次第で、可能性はあると思っている。現在、兼任で担当されている教員が多い。
- (中川委員) • 資金を確保する方法の一つとして、工学研究科を中心に、長崎大学の出身者から基金を集められないのか。この事業のビジョンをしっかりと持って、熱意を訴えてはどうか。
- 彌 田 • 来年、社会環境デザイン工学コースは創立 50 周年を迎える。これを機に必要な資金集めに努め、学生の海外派遣の支援に使いたい。長崎大学には「西遊基金」があるが、その一部とすることも検討していきたい。
• 想定される課題は資金問題で、当面の事業費はどう担保していくのか。12 月、文科省から次年度交付される補助金上限額の通達があり、その結果次第。受入学生への奨学金及び住居費の確保は不可欠であるため、両者は優先して確保しなければならない費用である。

◇ モニタリングの実施について

- (春日委員) • プロセスについて、2019 年 1 月に中国教育部によって実施されるモニタリングは、ここで 5 年間が一旦終了し、一回全体をレビューして、続けるかどうかとの認識で良いのか。
- 彌 田 • 今回のモニタリングは、現在進行中のプロジェクトの中でグッド・プラクティスを拾い集めて、それを紹介し広めていくのが目的である。また、本事業終了後は日本学術振興会による最終評価で、S、A、B、C のランクが付く予定。少なくとも 5 年間は各国の政府が本事業に資金提供する計画となっている。

4-5 まとめ・閉会

〈宮川委員長よりコメント〉

7月初め頃に神戸で学会に参加した際に、長崎大水害のことを思い出した。原爆や大水害という大きな被災経験のある長崎でインフラ人材を育成しようとする取組みは、大変有意義で時宜を得たプロジェクトであると言えるだろう。

600年前日本の窓口になった長崎で、人材を育成しよう、あるいは拠点を作ろうという観点は、長崎大学にとって極めてふさわしいものと思う。先生方については、このような質的に困難で手間がかかる事業に誠実に着実に成功しておられることに、私は敬意を表したい。

三つのメリットを整理していただくのが重要。

- ①何が学生にとってメリットなのか、 →人材育成
- ②何が長崎大学にとってメリットなのか、 →拠点
- ③それに加えて、何がスタッフにとってメリットなのか。

教員・スタッフに対しては、責務、名誉、対価、この三本の軸で評価すべきであるが、現在、責務がきわめて多大であることは明らかである。対価について責務にふさわしい対応をとることに大学としては厳しいところがあるだろう。したがって、もっと名誉を高める必要があり、例えば広報を活用する等して得られた成果のPR活動にもっと力を入れるべきだろう。それが派遣学生数の確保にもつながるものと思う。

さらに、これから進むためには、カリキュラムの充実と、カリキュラムの簡便化を考えて頂きたい。それを通じて人材育成と拠点形成を成し遂げることが長崎大学全体、学生、ひいてはスタッフにとっても幸せであり、また逆に言うと、そのような仕組みでないと資金はおそらく集まらないと思う。最後に、みなさんの努力には敬意を表して閉会の挨拶としたい。

◇閉会の辞

〈蒋 宇静 教授（工学研究科総合工学専攻社会環境デザイン工学コース長）よりコメント〉

貴重なアドバイスと励ましを頂きまして、ありがとうございました。3年目でまだ途中ですが、5年後でも皆さんから期待されるように、拠点化、学生の派遣及び受入についてのグローバル化を実現するために、教員一同はしっかりと役割を果たして行きたいと思います。今後ともご協力ご支援をよろしくお願ひ致します。

4 – 6 配布資料一覧

<事前送付>

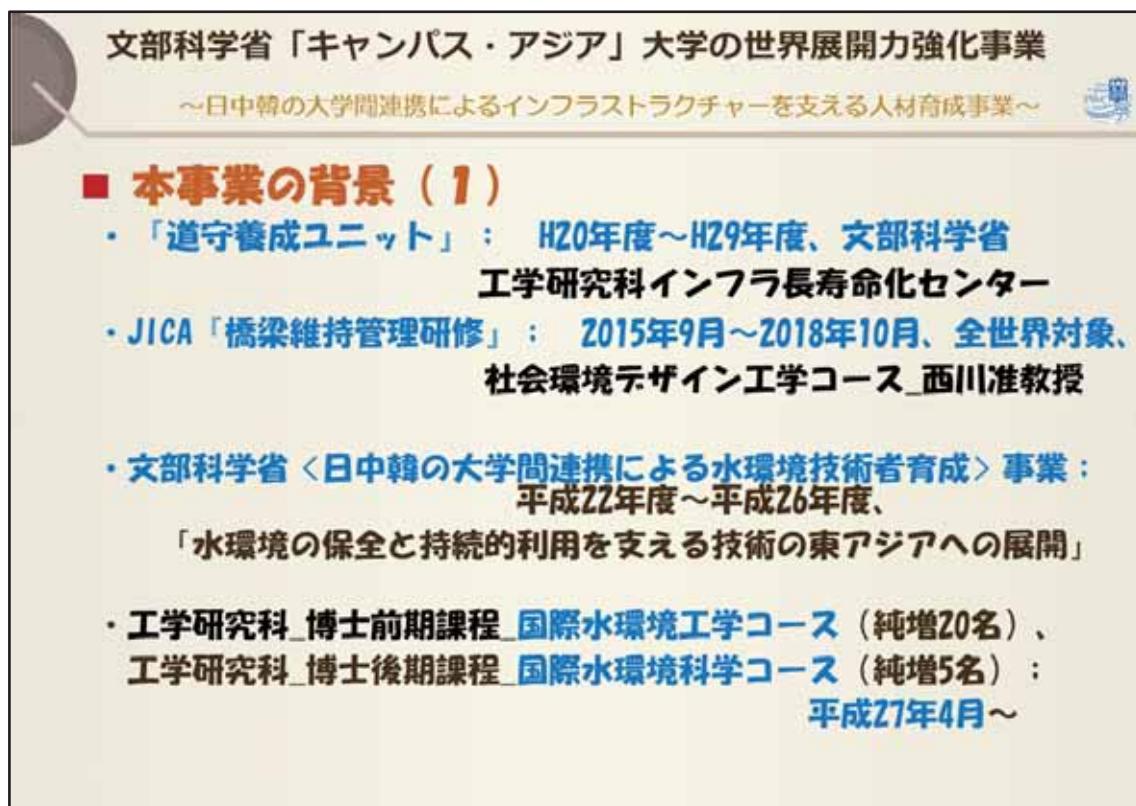
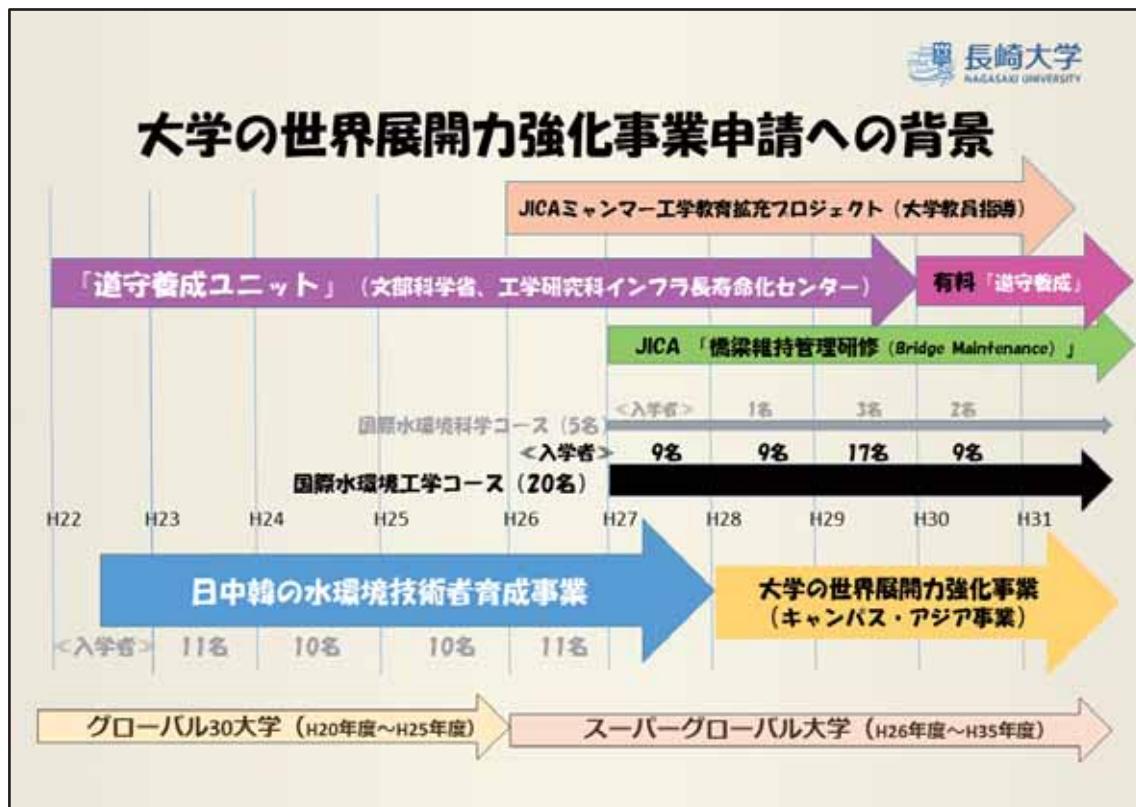
- (1) 第1回外部評価委員会次第
- (2) 平成28年度及び平成29年度 事業取組概要（日本語&英語）
- (3) 平成28年度及び平成29年度 事業実績報告書
 - ①平成28年度派遣&受入学生名簿
 - ②平成29年度3大学の派遣&受入学生数
 - ③平成29年度派遣&受入学生名簿
 - ④平成29年度受入学生を対象とした9月入学前教育プログラム
 - ⑤平成29年度受入学生を対象としたアンケート結果
 - ⑥平成29年度受入学生の成績表
 - ⑦平成29年度派遣学生を対象としたアンケート結果
 - ⑧平成29年度派遣学生の成績表
 - ⑨平成29年度派遣学生のTOEIC点数の変化について
 - ⑩平成29年度サマースクール参加者の名簿
- (4) 事業計画調書
- (5) 事業パンフレット（日本語・英語）
- (6) 事業のホームページ紹介
- (7) 協定書&学生交流に関する覚書
- (8) DD覚書及び実施要項
- (9) 日中韓3大学の平成29年度開講科目リスト
- (10) 事前質問票

[参考資料] 担当者会議の式次第と議事要旨・メモ

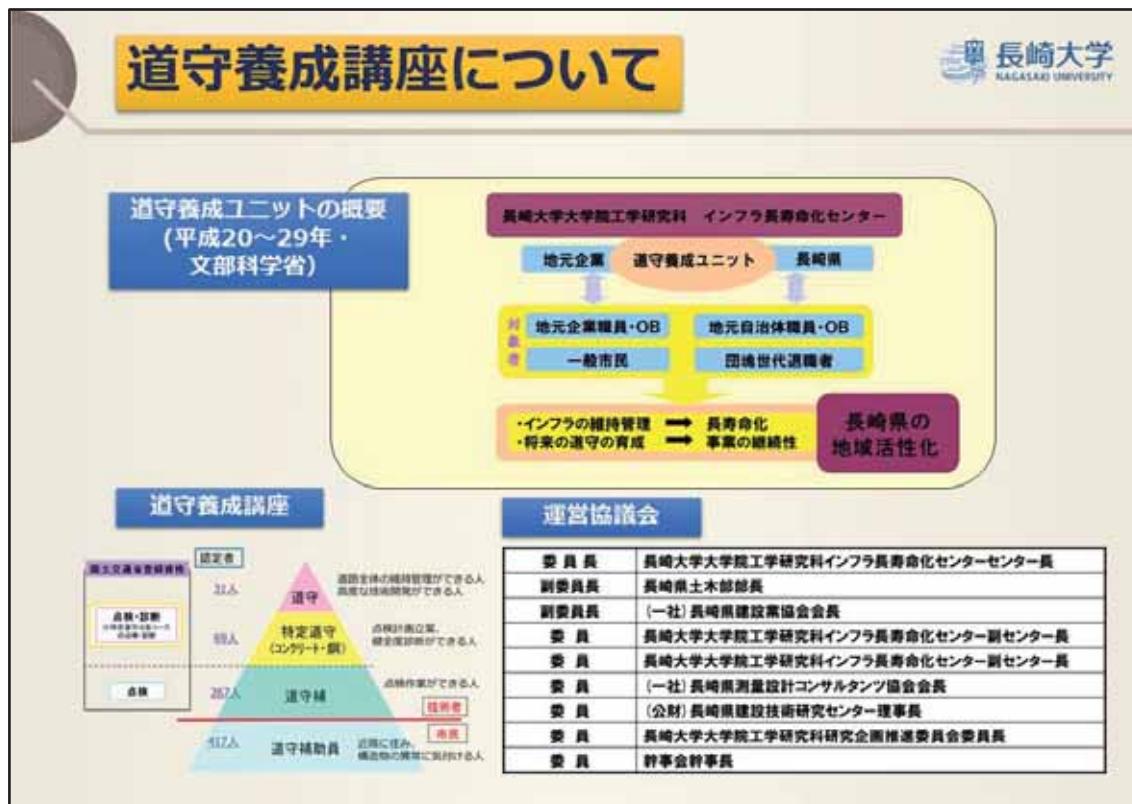
<当日配布>

- (1) 事業の概要説明資料
- (2) 事前質問票
- (3) 平成30年度 3大学間の派遣及び受入人数
- (4) 平成30年度 3大学の単位互換留学及びダブル・ディグリー開講科目リスト
- (5) 教員アンケート
- (6) 平成30年度 長崎大学開講科目リスト及び第1Q・第2Q 英語開講科目(計画)
- (7) 派遣学生のTOEICについて
- (8) 提供科目リスト(インフラ維持管理科目)及びJICA橋梁維持管理研修資料
- (9) 事業経費使途について
- (10) 本事業5年間のスケジュール
- (11) 組織構成表
- (12) 平成30年度臨時開設科目(派遣)
- (13) 中間評価調書





5.概要説明資料



7

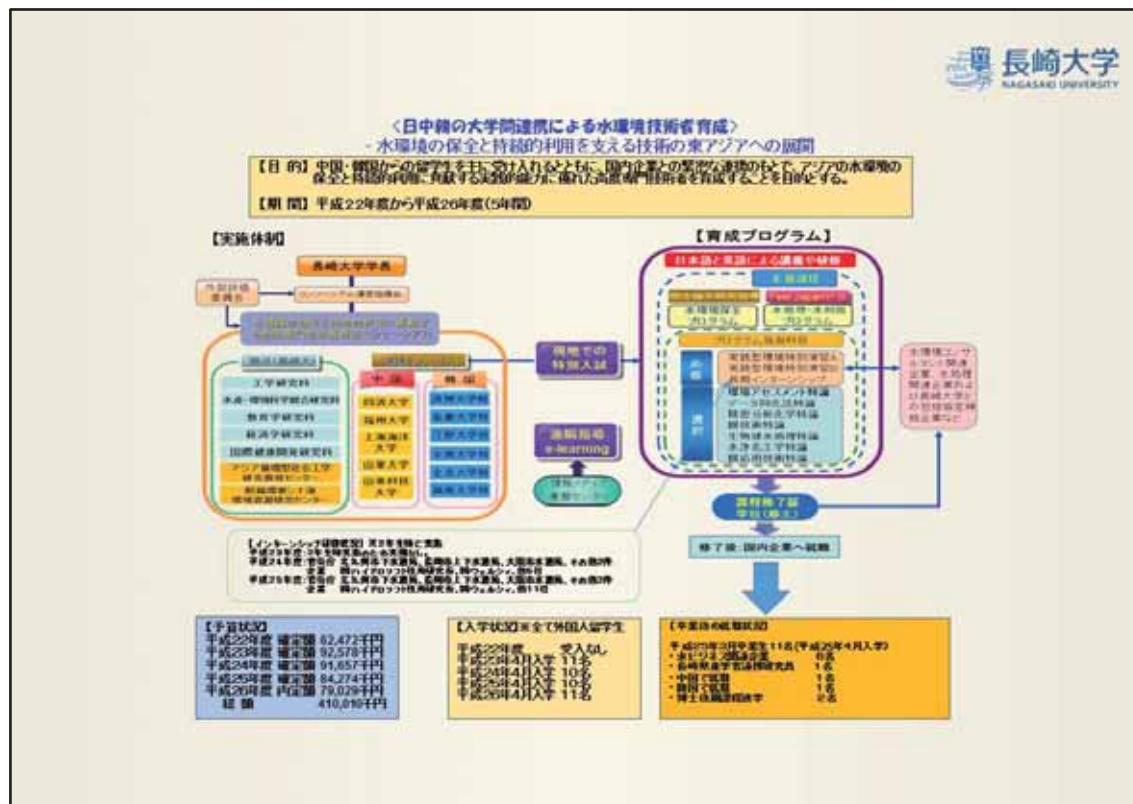
世界への技術移転

全世界対象「橋梁維持管理」研修(JICA課題別研修)

- 期間: 2016年～2018年
- 毎年、約20カ国から20名前後の政府技術者を招聘
- 橋梁の維持管理に関する研修を実施
- ① 講義
- ② 最新の点検・診断技術の紹介
- ③ 演習・実習
- ④ 観察(日本の現場、製作工場、研究所など)
- ⑤ 現地観察(研修効果の確認、ニーズの把握)



5.概要説明資料



長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

New educational program for water environmental engineering and science has started from April/2015

ASIA and AFRICA



The aim of the program is to recruit excellent students from

East Asia
China, Korea

South East Asia
Indonesia, Malaysia, Myanmar
the Philippines, Thailand, Vietnam,...

East Africa
Kenya, Tanzania, Uganda,...

長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

国際水環境工学コース入学者の変遷

	2015年		2016年		2017年		2018年	
	4月	10月	4月	10月	4月	10月	4月	10月
日本					1		2	
中国		2	1					1
韓国	1					1		
ベトナム	3		3		5	4	3	1
タイ	2		2		1	2	1	1
フィリピン			1					
ペルー						1		
【ABE】ケニア			1					
【ABE】ナイジェリア		1						
【ABE】ウガンダ				1			1	
【ABE】シンバブエ								
【ABE】セネガル						1		
小計	6	3	1	8	7	10	6	3

長崎大学

工学研究科_博士前期課程の留学生比率の変遷

■ 工学研究科博士前期課程の留学生比率 :

平成22年度:	12名／364名 × 100% = 3.3 %
日中韓の大学間連携による⇒平成23年度:	21名【11名】／405名 × 100% = 5.2 %
水環境技術者育成事業	平成24年度: 29名【21名】／426名 × 100% = 6.8 %
	平成25年度: 28名【20名】／431名 × 100% = 6.5 %
	平成26年度: 27名【21名】／434名 × 100% = 6.2 %
国際水環境工学コース⇒平成27年度:	26名【11名】／449名 × 100% = 5.8 %
(定員20名純増)	平成28年度: 23名(10名)／430名 × 100% = 5.4 %
	平成29年度: 32名(18名)／424名 × 100% = 7.5 %
	平成30年度: 44名(27名)／444名 × 100% = 9.9 %

※【〇〇名】は、日中韓の大学間連携による水環境技術者育成事業で入学の学生数を示す。

◆(〇〇名)は、国際水環境工学コースへ入学した学生数を示す。

文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業

～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～



■ 本事業の背景 (2)

・長崎大学の第三期中期目標・中期計画 :

「グローバル化する社会の要請に応じるべく、国際水準の教育、キャンパスの国際化、日本人学生の留学の飛躍的拡大の実現に向けた戦略的かつ包括的な教育改革を推進し、地域の課題を掘り下げる能力と多文化が共生する国際社会の現場で活躍する力を兼ね備えた長崎大学ブランド人材を育成する。」

・長崎大学の教育研究等の質の向上に関する目標：大学院課程

「高度な実践的能力と世界をリードできる高い研究能力を持つ研究者・高度専門職業人を育成する。」

・文部科学省「大学の世界展開力強化事業」：

平成28年11月～平成33年3月

文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業
～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～

■ 本事業の目的：

日本、中国及び韓国の大学院生を対象として各國のインフラ整備を専門的知識や技術面から支える人材を育成する為に、

①構造工学分野(橋梁等)、
②地盤工学分野(トンネル等)、
③水環境分野(ダム、上水/下水道等)

に代表される土木インフラ分野に限定して、インフラの機能低下がアジア各國の社会経済環境に及ぼす影響度を低減するための専門的知識や技術を習得させ、さらに、日本の優れた点検・維持管理技術をアジア各國の国々等に展開することができる高度な専門性を身につけた高度専門職業人（インフラ技術者）を大学院博士前期課程で育成する。

文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業
～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～

■ 養成する人材像：

- インフラ整備とそれらの維持管理技術に関する専門知識・技能を身につけた人材。
- 個の技術に偏らずインフラ整備全般の必要知識を有するバランスのとれた人材。
- グローバルに活躍できる高度専門職業人として必要な言語力（特に英語力）を身につけた人材。

文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業
～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～

■ 事業の概念図：

共通のルールの下で教育の質を保証するインフラ人材育成プログラム

The diagram illustrates the collaborative framework between three universities:

- Shandong University (中国):** Represented by the Chinese flag and a bridge image. It is connected to Sungkyunkwan University and Nagasaki University.
- Sungkyunkwan University (韓国):** Represented by the Korean flag and a dam image. It is connected to Shandong University and Nagasaki University.
- Nagasaki University (日本):** Represented by the Japanese flag and a bridge image. It is connected to Shandong University and Sungkyunkwan University.

Key features of the program include:

- Student Exchange:** Indicated by arrows labeled "Student Exchange" pointing between the three university logos.
- Infrastructure:** Each university is associated with specific infrastructure projects:
 - Shandong University: Water Conservancy Project, Tunnel Project.
 - Sungkyunkwan University: Water Conservancy Project.
 - Nagasaki University: Bridge.
- Organizational Structure:** A vertical column on the right lists operational components:
 - Infra Human Resource Consortium Operation Meeting
 - Exchange Program General Assembly
 - Unit Exchange System Implementation Meeting
 - Double-Degree Program Review Meeting
- Graduate School Programs:** A blue box at the bottom left states: "Graduate School Programs under the Unit Exchange System + Double-Degree Program".
- Notes:** A note at the bottom left specifies: "Nagasaki University Graduate School of Engineering, Shandong University College of Civil and Hydraulic Engineering, Sungkyunkwan University Water Resources Specialized Graduate School are based on academic exchange agreements and student exchange agreements, and credit transfer, admission courses, and tuition fees are互相に不徴収する (not charged to each other)."

文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業
～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～

■ 本事業の特徴：

- ・長崎大学_大学院工学研究科、
- ・山東大学_土建与水利学院、環境科学与工程学院、
- ・成均館大学校_水資源専門大学院、建設環境工学院

●中国・韓国からの留学生を特別聴講学生として受入れる。

●工学研究科に所属する学生を中国・韓国の大学に派遣する。

●単位互換制度とダブル・ディグリー制度に基づく学生交流プログラムの充実。

●三大学共通科目としてインフラ維持管理工学カリキュラムを新設。

文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業

～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～



■ 学生交流プログラムの実施：

1. H28年度 試行的派遣及び受入について

- ・工学研究科の大学院生（M1）を山東大学（2名）及び成均館大学校（2名）へ4週間ずつ試行的に派遣した。
- ・韓国・成均館大学校の留学生3名を1月中旬の2週間、受入れた。



文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業

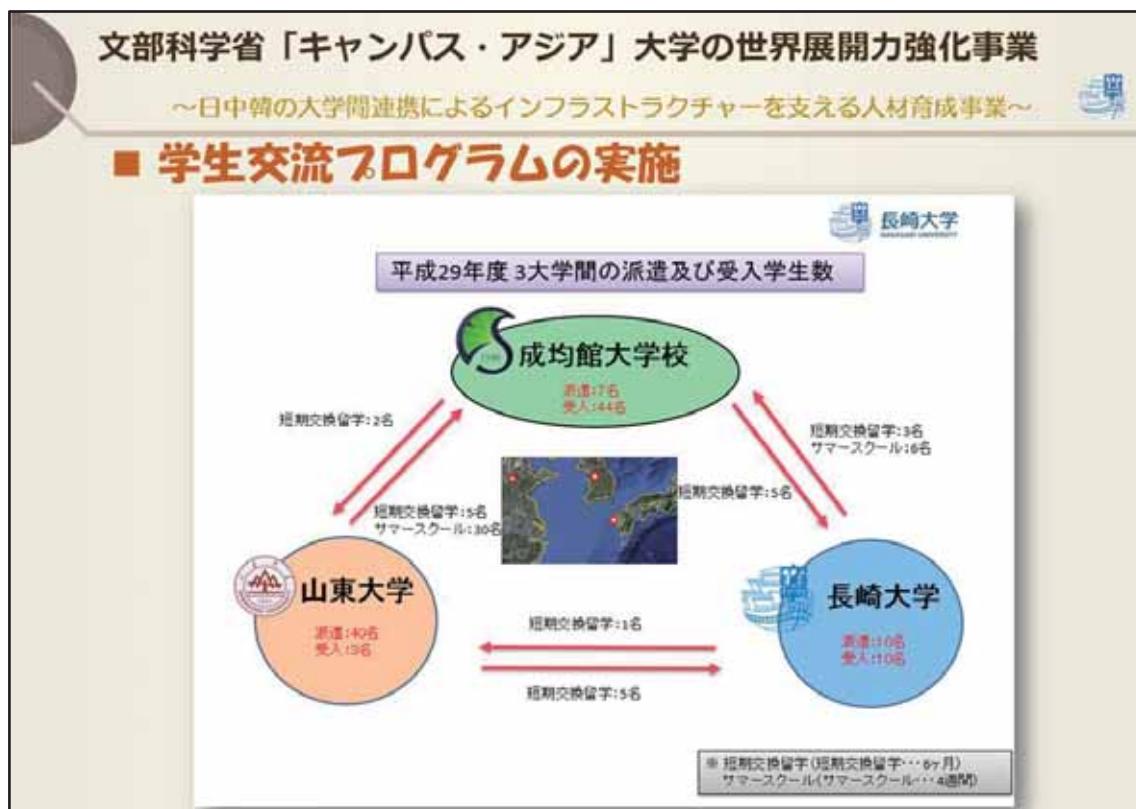
～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～



■ 学生交流プログラムの実施

2. H29年度 取組実績

日 時	分類	実施内容	対象者
H29年4月29日	派遣	体験留学発表会	工学研究科院生
H29年5月17日	派遣	短期交換留学説明会	社会環境デザインコース院生
H29年5月27日	会議	第4回三大学担当者会議	
H29年5月30日	派遣	サマープログラム説明会	工学研究科院生
H29年7月～8月	講座	中国語講座（7回）/韓国語講座（3回）/英語講座（3回）	派遣学生 4名
H29年7月23日～8月19日	派遣	韓国・サマープログラム	派遣学生 6名
H29年8月28日～H30年2月19日	派遣	韓国・短期交換留学	派遣学生 3名
H29年9月15日～H30年1月31日	派遣	中国・短期交換留学	派遣学生 1名
H29年9月1日	会議	第5回三大学担当者会議	
H29年9月4日～H30年2月28日	受入	山東大学留学生受入	受入学生 3名
H29年9月5日～H30年2月27日	受入	成均館大学留学生受入	受入学生 5名
H29年9月	受入	受入留学生の9月特別プログラム	受入学生 10名
H29年10月～H30年2月	受入	日本語講座（19回）	受入学生
H29年12月24日	会議	第6回三大学担当者会議	
H30年2月5日	派遣	サマープログラム報告会	派遣学生 6名
H30年2月6日	受入	短期交換留学生による発表会＆征書授呈	受入学生 10名
H30年3月11日	派遣	留学後TOEIC受験	派遣学生 10名
H30年3月29日	会議	第2回コンソーシアム運営会議	



文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業
～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～

■ 学生交流プログラムの実施

3. H29年度 派遣学生について (1)

- ・サマースクールプログラム
成均館大学校へ6名（4年生）を4週間を派遣した。

The block contains three photographs showing groups of students at Seokjo University. The first photo shows a large group of students in a modern, well-lit hallway. The second photo shows a group in front of a building with Korean signage. The third photo shows a group in a classroom or lecture hall.

5. 概要説明資料

文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業

～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～



■ 学生交流プログラムの実施

3. H29年度 派遣学生について (2)

・成均館大学校でのサマースクールプログラム スケジュール

Special Lecture				Culture experience	
No.	Date and time	Classroom	Lecturer	Theme	
1	July 25 Tue	13:00~15:00	26217A	Kyu Seok Lee	Seoul Landscape - Where to visit?
2	July 26 Fri	13:00~15:00	26217A	Mirha Choi	Water on Earth
3	July 31 Mon	13:00~15:00	26217A	Hye Young Choi	
4	August 4 Fri	13:00~15:00	26217A	Jin Koo Kim	Structure systems for tall buildings
5	August 7 Mon	13:00~15:00	26217A	Sang Iljin	Building Information Modeling
6	August 9 Wed	13:00~15:00	26217A	Sang Hyun Jung	Desalination - Past, Present and Future
7	August 11 Fri	13:00~15:00	26217A	Eun Wook Kwon	Challenge and Opportunity on Industry 4.0 era for Construction
8	August 14 Mon	13:00~15:00	26217A	Am Jang	Application of membrane technology for water treatment and generation

No.	Date and time	Theme	
1	July 23 Thu	13:00~15:00	Seoul city tour; Haneulgung UNESCO world Heritage
2	July 27 Mon	11:00~17:00	Hanok tour; Hanok experience; Gugak Performance
3	August 12 Thu	13:00~18:00	Hanok tour; Skating Workshop

Field Trip

No.	Date and time	Theme	
1	August 5 Tue	13:00~18:00	Ara water culture center; Oliva solar energy plant
2	August 9 Thu	13:00~17:00	Asian Institute of Civil Engineering and Building Technology
3	August 8 Tue	13:00~13:00	Lotte world tower

文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業

～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～



■ 学生交流プログラムの実施

3. H29年度 派遣学生について (3)

・単位互換制度に基づく短期交換留学：

中国・山東大学へ1名
韓国・成均館大学へ3名、それぞれ6ヶ月間派遣した。






文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業

～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～



■ 学生交流プログラムの実施

3. H29年度 派遣学生について (4)

- ・単位互換制度に基づく短期交換留学（成績表）

派遣先	氏名	受講講義	評価
成均館大学 (3名)	学生A	Advanced Biological/Water Treatment	B+
		Water Resources & Remote Sensing	B
		Communications and presentations on water resources2	B+
	学生B	Flow Analysis for River Systems	B
		Advanced Biological/Water Treatment	B+
		Advanced Wave Mechanics	B
	学生C	Slope Stability	A
		Water Resources & Remote Sensing	B+
		Communications and presentations on water resources2	A
		Design of Earth Structures	Pass
		Rock Engineering	Pass
		山東大学 (1名)	Geotechnical Earthquake Engineering
Advanced Water and Waste water Treatment	90		
Contaminant Hydrogeology	90		
Bioaerosol	95		
Anaerobic Biotechnology	95		
Environmental Toxicology	85		
Novel Technologies for Waste Treatment and Bio-resource Utilization	95		
Atmospheric Climate and Environment: Global Changes	76		

文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業

～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～



■ 学生交流プログラムの実施

4. H29年度 受入学生について (1)

- ・単位互換制度に基づく短期交換留学

山東大学と成均館大学校からそれぞれ5名ずつを6ヶ月間受け入れた。



文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業

～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～

■ 学生交流プログラムの実施

4. H29年度 受入学生について (2)

★入学前教育プログラム (H29年9月)

オリエンテーション、日本語講座、特別講義、インフラ現場の見学

- 9/11 (月) 中村先生 Introduction to seismic design of bridge structures
- 9/12 (火) 瀬戸先生 Introduction to hydrology and remote sensing
- 9/13 (水) 中原先生 Seismic retrofitting approaches in Japan
- 9/14 (木) 大嶋先生 Utilization of disaster wastes and tsunami sediment by geo-environmental approach
- 9/19 (火) 罗田先生 Water environmental issues in the Kyushu region, Japan.
- 9/20 (水) 奥松先生 Introduction on Structural Health Monitoring
- 9/21 (木) 才本先生 Introductory talk on Chaos in Engineering
- 9/25 (月) 山口 (浩) 先生 Steel and concrete composite structure in Japan
- 9/25 (月) 山口 (朝) 先生 Environment and energy in Thermal engineering

文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業

～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～

■ 学生交流プログラムの実施

4. H29年度 受入学生について (3)

・ 単位互換制度に基づく短期交換留学（成績評価表）

受入	氏名	受講科目	評価	受入	氏名	受講科目	評価	
成均館大学 (5名)	学生A	Advanced Maintenance and Management of Infrastructure	AA	山東大学 (5名)	学生F	Advanced Maintenance and Management of Infrastructure	AA	
		Advanced Remote Sensing	AA				Advanced Geoenvironmental Engineering	AA
		Advanced Structural Design	AA				Advanced Coastal Environmental Engineering	AA
		Advanced Geoenvironmental Engineering	AA				Environmental data analysis	AA
		Advanced Environmental Hydraulics	A				Advanced Environmental Hydraulics	AA
学生B		Advanced Coastal Environmental Engineering	AA			Advanced structural design	AA	
		Advanced Remote Sensing	AA			Advanced structural design	AA	
		Environmental material science and chemistry	AA			Advanced Maintenance and Management of Infrastructure	AA	
		Restoration and conservation of water environment	B			Advanced Geoenvironmental Engineering	AA	
		Modern water treatment engineering	B			Advanced Coastal Environmental Engineering	AA	
学生C		Advanced Environmental Hydraulics	AA			Modern water treatment engineering	D	
		Advanced Coastal Environmental Engineering	A			Environmental material science and chemistry	A	
		Advanced Remote Sensing	AA			Advanced Remote Sensing	A	
		Environmental Material Science and Chemistry	AA			Advanced structural design	AA	
		Restoration and Conservation of Water Environment	AA			Advanced Coastal Environmental Engineering	AA	
学生D		Modern Water treatment engineering	B			Advanced Maintenance and Management of Infrastructure	AA	
		Advanced Environmental Hydraulics	A			Advanced Geoenvironmental Engineering	AA	
		Advanced Coastal Environmental Engineering	A			Advanced Environmental Hydraulics	AA	
		Advanced Remote Sensing	A			Environmental data analysis	A	
		Environmental material science and chemistry	AA			Restoration and conservation of water environment	C	
学生E		Restoration and conservation of water environment	AA			Environmental material science and chemistry	AA	
		Modern water treatment engineering	A			Environmental data analysis	A	
		Advanced Environmental Hydraulics	AA			Modern water treatment engineering	B	
		Advanced Coastal Environmental Engineering	A			Advanced Environmental Hydraulics	AA	
		Advanced Environmental Hydraulics	AA			Advanced Geoenvironmental Engineering	AA	
		Advanced Maintenance and Management of Infrastructure	AA			Restoration and conservation of water environment	C	
		Advanced Remote Sensing	A			Environmental material science and chemistry	A	
		Modern water treatment engineering	A			Environmental data analysis	A	
		Advanced Geoenvironmental Engineering	AA			Modern water treatment engineering	C	
		Restoration and conservation of water environment	A			Advanced Environmental Hydraulics	AA	

文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業

～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～



■ 学生支援

1. 派遣学生について

- ・留学に関する全面的なサポート：

留学に関する「学内説明会」の開催、留学費用の補助、手続きのサポート、渡航前オリエンテーション、渡航期間中のサポート 等

- ・留学前の語学研修：

国際コーディネーターによる中国語、韓国語、英語講座

- ・奨学金の支給（6ヶ月分）：

山東大学及び成均館大学校が支給



- ・学術交流協定に基づく検定料、入学料及び授業料の免除

- ・各大学の**学生寮**に半年間入居

- ・留学後の学内留学報告会の開催



- ・TOEIC受験料の補助

- ・危機管理サービス（OSSMA）への加入

文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業

～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～



■ 学生支援

2. 受入学生について

- ・奨学金の支給（6ヶ月分）

日本学生支援機構（JASSO）海外留学支援制度（協定受入）

- ・学術交流協定に基づく検定料、入学料及び授業料の免除

- ・国際コーディネーターによる生活全般の24時間サポート

- ・民間の**マンスリーマンション**を借り上げ、半年間入居

- ・成果発表会及び**修了証書**授与式の開催



文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業
～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～

■「教育の質保証」を伴った大学間交流の枠組形成について

1. 三大学間によるコンソーシアム運営会議の開催

第1回インフラ人材育成コンソーシアム運営会議（設立総会）の開催
(2017年3月23日)、学術交流協定及び学生交流に関する覚書の締結



文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業
～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～

■「教育の質保証」を伴った大学間交流の枠組形成について

第2回インフラ人材育成コンソーシアム運営会議の開催（2018年3月29日）
ダブル・ティグリー制度に関する覚書及び実施要項の締結



文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業

～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～

2. 三大学による担当者会議の開催

大学の世界展開力強化事業 担当者会議（平成28年度～平成29年度）				
議事録番号	日 時	内 容	参加者	開催場所
-	2016/11/29～11/30	世界展開力強化事業採択大学へのご挨拶	日韓関係者	韓国・成均館大学（水原）
-	2016/12/04～12/06	世界展開力強化事業採択大学へのご挨拶	日中関係者	中国・山東大学（済南）
-	2016/12/13～12/14	キャンパス・アジア 第1回日中韓学長フォーラムの開催	学長等日中韓関係者	韓国・コンラッドソウルホテル
①	2017/1/07～1/09	世界展開力強化事業に係る第1回三大学担当者会議	3大学関係者	韓国・成均館大学（ソウル）
②	2017/2/02～2/04	成均館大学キックオフ・シンポジウム&第2回三大学担当者会議	3大学関係者	韓国・成均館大学（水原）
③	2017/3/22～3/26	第1回コンソーシアム運営会議&第3回三大学担当者会議	3大学関係者	日本・長崎大学
④	2017/5/26～5/28	第4回三大学担当者会議	3大学関係者	中国・山東大学（済南）
⑤	2017/8/31～9/02	第5回三大学担当者会議	3大学関係者	韓国・江南ホテル（ソウル）
⑥	2017/12/22～12/24	第6回三大学担当者会議	3大学関係者	中国・山東大学（青島）
⑦	2018/3/28～3/31	第2回コンソーシアム運営会議&第7回三大学担当者会議	3大学関係者	日本・長崎大学

文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業

～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～

■ 「教育の質保証」を伴った大学間交流の枠組形成について

3. 「インフラ維持管理工学」カリキュラムの新設

- ・ 3大学がそれぞれ提供した科目に基づき、新たにインフラ維持管理に関する共通カリキュラムを新設。
- ・ 2018年度は、長崎大学と山東大学が講義を試行的に実施。
- ・ 山東大学は2019年春学期に開講する ← 長崎大学から講師派遣
- ・ 成均館大学校は、2019年度から開講予定。
- ・ 本事業の派遣及び受入学生のみならず、3大学の大学院生を対象として開講する。

5. 概要説明資料

文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業

～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～

1. Subject
International Course in Civil Infrastructure Maintenance

2. Professor in charge of the subject
Shozo Nakamura

3. Eligible student
Graduate student

4. Class form
Intensive lecture and practice

5. Professor(s)
Shozo Nakamura, Hiroshi Matsuda, Toshihiro Okumatsu, Koho

6. Aim of the subject
Students are expected to understand concepts of civil infrastructure engineering. Students are also expected to learn how to operate of civil infrastructures through practices. Furthermore, students efficiently utilize various information for management of civil infrastructures.

Course of Civil and Environmental Engineering				
	Subject	Lecturer	Credits	Teaching
1	Advanced structural design 復元構造工学	Prof. Yamaguchi	2	32
2	Advanced Environmental Hydraulics 環境水理学特論	Prof. Tada	2	32
3	Advanced Coastal Environmental Engineering 海岸環境工学特論	Prof. Tada	2	32
4	Advanced Maintenance and Management of Infrastructure 維持管理工学特論	Prof. Okumatsu	2	32
5	Advanced Geoenvironmental Engineering 地盤環境工学特論	Prof. Jiang	2	32
6	Advanced Remote Sensing リモートセンシング特論	Prof. Seto	2	32
7	International Course in Civil Infrastructure Maintenance インフラ維持管理・更新・マネジメント技術	Prof. Nakamura	2	32

文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業

～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～

■ H30年度の進捗状況（計画）：

1. 学生交流プログラムの実施について

長崎大学

平成30年度 3大学間の派遣及び受入人数

The diagram illustrates the student exchange programs between three universities for the fiscal year 2018. It shows the number of students sent and received by each university.

- Chonnam National University (成均館大学校):**
 - Sent: なし (None)
 - Received: 3名 (3 students)
- Nagasaki University (長崎大学):**
 - Sent: なし (None)
 - Received: 12名 (12 students)
- Sichuan University (山東大学):**
 - Sent: 15名 (15 students)
 - Received: 21名 (21 students)

Specific exchange details are provided for each program:

- Chonnam National University to Nagasaki University:** なし (None)
- Nagasaki University to Chonnam National University:** なし (None)
- Nagasaki University to Sichuan University:** なし (None)
- Sichuan University to Nagasaki University:** なし (None)
- Chonnam National University to Sichuan University:** 15名 (15 students)
- Sichuan University to Chonnam National University:** なし (None)
- Chonnam National University to Nagasaki University:** なし (None)
- Nagasaki University to Chonnam National University:** 12名 (12 students)
- Nagasaki University to Sichuan University:** なし (None)
- Sichuan University to Nagasaki University:** なし (None)
- Sichuan University to Chonnam National University:** なし (None)

文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業
～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～



■ H30年度の進捗状況（計画）：

1. 学生交流プログラムの実施について

✓ ダブル・ディグリー制度に基づく長期交換留学の開始

長崎大学一成均館大学（派遣）		2017	入学前	2018												1年目	2019												2年目	2020		
		10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
長崎大学	留学期間																															
	滞在																															
	単位																															
	入試	1月	-	○																												
成均館大学	学位論文																															
	留学期間																															
	滞在																															
	単位																															
山東大学	留学期間																															
	滞在																															
	単位																															
	入試																															
長崎大学一山東大学（派遣）	学位論文																															
	留学期間																															
	滞在																															
	単位																															
山東大学	留学期間																															
	滞在																															
	単位																															
	入試																															
長崎大学一山東大学（派遣）	学位論文																															
	留学期間																															
	滞在																															
	単位																															

文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業
～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～



■ H30年度の進捗状況（計画）：

2. 「教育の質保証」を伴った大学間交流の枠組形成：

- 大学の世界展開力強化事業プログラム委員会による中間評価
- 2018年7月中旬評価調書提出
- 2018年10月面接評価（予定）
- 第1回外部評価委員会（2018年7月23日）の開催
- 中国教育部高等教育教学評価センターによる本事業のモニタリング
- 2018年10月自己評価書提出
- 2019年1~2月（予定）現地調査（山東大学）
- 「インフラ維持管理工学」カリキュラムの試行的な実施

文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業
～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～

■本事業の広報（1）

i) 事業ホームページ（日本語、中国語、韓国語、英語）
[長崎大学 | 日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業](#)



文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業
～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～

■本事業の広報（2）

ii) 事業パンフレット（日本語、英語）



文部科学省「キャンパス・アジア」大学の世界展開力強化事業
～日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業～

■ 今後の課題について：

- 「教育の質保証」の担保： 共通ルールに基づく学生交流プログラム
 - ACTS(ASEAN Credit Transfer System),
 - ECTS(European Credit Transfer System、ヨーロッパ単位互換制度),
 - UMAP(アジア太平洋大学交流機構)における単位互換のスキーム 等
- 「教育の質保証」を担保するために、ACTSの考え方の導入の可能性は？
- 修士論文の指導体制…2大学の教員による「渡航前研究指導システム」
- 事業経費の確保…H30年度補助金申請額（32.260千円）
H30年度交付額（18.700千円、-40.2%）
- 派遣学生の確保……英語の基礎学力不足
- 英語によるインターンシップ受入企業の確保…極めて難しい！

長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

ご清聴ありがとうございました！



山東大学・青島キャンパス



大学の世界展開力強化事業 中間評価調書

大学等名 (○が代表大学)	長崎大学		整理番号	A-②-8
主たる交流先	A-② キャンパス・アジア(CA)事業の推進 <新たにCAに取り組むもの>"			
事業名	日中韓の大学間連携によるインフラストラクチャーを支える人材育成事業			
学長名	河野 茂			
事業責任者	(氏名) 清水 康博 (職名) 長崎大学大学院・工学研究科長 (交替年月日)			
取組学部・研究科等名	大学院工学研究科[博士前期課程]			
相手大学名 (国名)	①	山東大学	(中国)	
	②	成均館大学校	(韓国)	
	③		()	
	④		()	
	⑤		()	
	⑥		()	
	⑦		()	
	⑧		()	
	⑨		()	
	⑩		()	
	⑪		()	
	⑫		()	
	⑬		()	
	⑭		()	
	⑮		()	
参考資料一覧	資料名			備考
	1 大学の世界展開力強化事業 パンフレット			日本語版
	2 大学の世界展開力強化事業 パンフレット			英語版

事務担当者	(氏名) 増田 美紀	(職名) 研究国際部国際企画課 班長
連絡先	(住所) 〒852-8521 長崎市文教町1番14号	
	(電話番号) 095-819-2122	(E-mail) ryugaku@ml.nagasaki-u.ac.jp

※中間評価調書の内容等について連絡可能な事務担当者を記入してください(複数名の担当者がいる場合でも代表者1名を記入してください)。また、連絡先 E-mail については、複数人で確認が可能なメールアドレスを記入してください。

進捗状況の概要 【1ページ以内】

■全般的な状況； 平成 28 年 11 月の本事業選定以降、学内の運営組織と支援体制を整備するとともに、山東大学及び成均館大学校との協力体制を構築した。平成 29 年度には、事業計画に基づく交流プログラムを確実に実施してきた。すなわち、長崎大学大学院工学研究科の博士前期課程（総合工学専攻）のインフラ整備に関連するコースに中国・韓国からの特別聴講学生 10 名を受け入れるとともに、同じコースに所属する日本人学生 4 名を中国・韓国の大学に派遣した。日本、中国及び韓国のインフラ整備に関して英語で開講している講義・演習科目等を履修させるとともに、単位互換制度やダブル・ディグリー制度によってアジア諸国のインフラ整備と維持管理に貢献できるグローバルかつ実践的能力に優れた高度専門職業人の育成に努め、着実な交流実績を挙げた。

■「教育の質保証」を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組； ①定期的に持ち回りで開催される 3 大学の担当者会議の中で、3 つの部会「交流プログラム企画部会」、「単位互換制度実施部会」及び「ダブル・ディグリー検討部会」を設けて、具体的な協議を行った（平成 28 年度：3 回、平成 29 年度：4 回）。これらの検討内容を踏まえ、第 1 回目の「インフラ人材育成コンソーシアム運営会議」において、交流プログラムの基盤となる学術交流協定及び学生交流に関する覚書を締結した。また、第 2 回目の上記運営会議において、ダブル・ディグリー制度に関する覚書と実施要項を締結した。

②「インフラ維持管理工学カリキュラム」については、平成 30 年度は山東大学と長崎大学でそれぞれ試行的に実施し、成均館大学校では平成 31 年度の実施に向けて準備を進めることになった。先行して実施する 2 校では、講義終了時に受講生を対象にアンケート調査を行い、次年度以降のカリキュラム改善に役立てることが決定している。

■日本人学生の派遣及び外国人学生の受入のための環境整備； ①派遣学生； 毎年 4 月に学内説明会を開催することによって、両大学への派遣スケジュール及び出願書類や経済支援（奨学金、宿舎）等の内容を詳しく事前に確認することができ、安心した状態で短期留学の決断が可能となった。さらに、国際コーディネーターが中国語及び韓国語の初級レベルの語学研修を行い、異文化を体験する支援を享受できた。また、留学中にも国際コーディネーターと指導教員による 24 時間の生活相談及びサポートの体制を整えた。②受入学生； 宿舎手配や在留資格取得のサポート、研究室配属、指導教員やチューターなど適切な支援体制を整えるとともに、講義開始前の 9 月中に事前教育プログラム（日本のインフラ建設現場の視察を含む）及び日本語研修を実施し、いち早く日本の大学の仕組みの把握と日常生活における懸念を低減させることができた。

■情報の公開、成果の普及； 平成 29 年 5 月までに多言語対応の専用ホームページを完成させた。また、日本語版及び英語版のパンフレットを作成・配布することによって、長崎大学の国際化戦略、学生の募集、交流プログラムの目的やメリットなどについて、学内はもとより、ASEAN 諸国の大学や学生のインターンシップ先企業、外部評価委員等への広報資料として活用している。

■今後の展望； 日本から中国及び韓国へ派遣される学生にとって留学への動機づけになるよう、山東大学と成均館大学校で開催される「サマースクール」に工学部の学部生を「事前研修」として参加させ、中国及び韓国のインフラ整備の現状や課題等を学ぶとともに、「呼び水的な効果」として平成 31 年度以降に本事業下で派遣する大学院生の増加に努めていく。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

平成 28 年度				平成 29 年度			
派 遣		受 入		派 遣		受 入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
6 人	4 人	0 人	3 人	10 人	10 人	10 人	10 人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

7. 中間評価調書（公表ページのみ抜粋）

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

■**満足度の高い学生交流プログラムの充実；** 本事業は、アジア諸国のインフラ整備及びそれらの維持管理に関する問題に焦点を合わせ、中国及び韓国との交流実績を基盤としながら、インフラストラクチャー整備に関する課題の解決に貢献できる実践的能力に優れたインフラ技術者（高度専門職業人）を育成するものである。平成 28 年度から平成 29 年度にかけて、大学院生を中心とした様々な交流プログラムを実施してきた。すなわち、下記の 3 つの交流プログラムを設け、派遣と受入に関する留学説明会や語学研修、インフラ現場の視察等、留学中及び事前・事後活動の充実を図った。さらに、全ての派遣・受入学生を対象に、現場視察に関するレポートや短期留学に関するプレゼンテーション、短期留学終了時の交流プログラムに関するアンケート調査などを実施した。その結果、多くの参加学生から「大変満足であった」との回答を得ることができ、極めて高い教育的効果が得られている。

①サマースクールへの参加（4 週間）； 成均館大学校で平成 29 年夏季に開催された 4 週間（7/24～8/18）に渡る「インフラに関するサマースクール」に、工学部 4 年生の 6 名が参加した。その内 1 名が大学院工学研究科へ進学し、平成 30 年度には本事業の目玉となるダブル・ディグリー制度に基づき山東大学に長期留学することとなった。当該学生は、事前研修を通して中国・韓国のインフラ整備の現状や課題等を学ぶとともに、海外への関心を喚起された好例であり、サマースクールの「呼び水的な効果」が現れたものである。今後も積極的に 2 大学が実施するサマースクールに学部学生を参加させ、単位互換制度やダブル・ディグリー制度による留学への関心を高揚させて、派遣学生数の増加に努める。

②単位互換制度に基づく短期留学（6 ヶ月）； 平成 29 年度から本格的に展開した本事業に基づき、派遣と受入を合わせて 14 名の大学院生が学生交流プログラムに参加した。派遣学生は、中国及び韓国のインフラ整備に関する講義や実習等を英語で履修し、平均 4 科目の単位（8～12 単位）を取得した。一方、受入学生については、修士論文題目に沿った研究室と指導教員の選定を行い、工学研究科におけるインフラに関連した英語の授業を履修し、平均 6 科目の単位（12 単位）を取得した。研究室の枠を越えた様々な文化交流も見られ、日本人学生とともにインフラ整備の現状と課題を把握してもらうことで、自身の研究と日常生活の両面でグローバル化を肌で感じさせることができた。

③ダブル・ディグリー制度に基づく長期留学（1 年間）； 平成 30 年 3 月に 3 大学間でダブル・ディグリー制度に関する覚書と実施要項を締結した。これらに基づき、平成 30 年 9 月から工学研究科の大学院生 2 名を中国の山東大学へダブル・ディグリー制度に基づく長期留学へ派遣することになっている。

■**共通認識された「教育の質保証」を伴った大学間の取組；** ①3 大学間が協力体制を整備し「インフラ人材育成コンソーシアム運営会議」を年に 1 回を開催することにしている。第 1 回会議では、交流プログラムの基盤となる学術交流協定及び学生交流に関する覚書が締結された。第 2 回会議では、ダブル・ディグリー制度に関する覚書及び実施要項が締結された。これらによって、当初の計画よりも 1 年間前倒しでダブル・ディグリー制度に基づく学生の長期派遣が出来るようになった。特に、ダブル・ディグリー制度を活用した学生派遣については、長崎大学においては 3 例目、工学研究科においては初となる試みであり、大学全体の国際化を前進させるものである。今後も交流プログラムの更なる高度化とグローバル化に向けた共通認識の下、3 大学が相互交流を深化させながら本事業を発展させていく覚悟である。②本事業では、定期的に持ち回りで開催される 3 大学の担当者会議の中で 3 つの部会「交流プログラム企画部会」、「単位互換制度実施部会」及び「ダブル・ディグリー検討部会」を設けて、学位取得スケジュール、修士論文の指導方法、開講科目等について鋭意協議を行っている。定期的に 3 大学の担当者が face to face で交流プログラムの内容について審議し、情報を共有しながら本事業を展開していることが特徴的事柄である。③ダブル・ディグリー制度の中で 3 つの大学が共通に新設する「インフラ維持管理工学カリキュラム」については、平成 30 年度に山東大学と長崎大学でそれぞれ試行的に講義を実施し、成均館大学校では平成 31 年度の実施に向けて準備を進めることになった。

以上の交流プログラムを継続し成果を積み上げていくことにより、本学が第三期中期目標・中期計画で基本的目標として掲げている「グローバル化する社会の要請に応じるべく、国際水準の教育、キャンパスの国際化、日本人学生の留学の飛躍的拡大の実現に向けた戦略的かつ包括的な教育改革を推進し、地域の課題を掘り下げる能力と多文化が共生する国際社会の現場で活躍する力を兼ね備えた長崎大学ブランド人材を育成する」の実現に向けて貢献していく。

第2回インフラ人材育成コンソーシアム運営会議及び第7回キャンパス・アジア事業担当者会議が開催されました

2018年3月29日

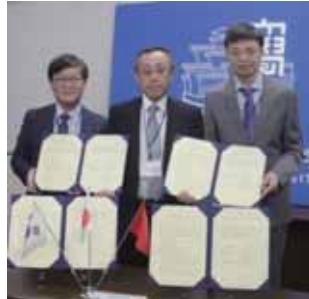
3月29日、第2回インフラ人材育成コンソーシアム運営会議及び第7回目のキャンパス・アジア事業に関する担当者会議が長崎大学において開催されました。山東大学土建与水利学院や環境与工程学院の関係者5名、成均館大学校水資源専門大学院田庚秀研究科長らの担当者5名が集まりました。

本事業の採択後、平成29年度は3大学間による単位互換制度に基づいた交換留学が実施されました。さらに、教育の質を保証し高度なインフラ技術者を育成するため、具体的な協議を重ねてきた担当者らは、今回、長崎大学で一堂に会し、第2回インフラ人材育成コンソーシアム運営会議を開催すると共に、ダブルディグリー・プログラム（以下DD）の締結調印式を同時に執り行いました。会議の冒頭では、長崎大学の河野学長及び山東大学土建与水利学院の劉健副院長、成均館大学校水資源専門大学院の田庚秀研究科長がご挨拶をなされ、日中韓の連携と友好の強化に向けたそれぞれの抱負が語られました。今後、日中韓の大学院教育は、更なる高度化とグローバル化に向けて発展させていくとの共通認識の下、相互交流を深化させながら本事業が展開されます。

さらに、担当者会議では平成29年度に実施した学生派遣&受入状況について、報告がなされ、今回のDD制度の締結により、平成30年度の学生派遣及び受入についても、具体的な協議がなされました。

その他、前回の会議では提案があった共通の科目の開設についても、具体的な議論がなされ、平成30年度においては、長崎大学と山東大学が先行して試験的に行うこととに合意されました。

最後に、両大学の先生方が本学校の研究室や実験室等を視察し、学生の教育研究環境を確認することができました。今回の会議は非常に有意義のものとなったと確信しております。



キャンパス・アジア 長崎大学「大学の世界展開力強化事業」第1回 外部評価委員会が開催されました

2018年7月23日

7月23日、キャンパス・アジア「大学の世界展開力強化事業」第1回外部評価委員会が長崎大学文教キャンパスにおいて開催されました。

本委員会のメンバーとしては、大学関連委員の土木構造分野（京都大学・名誉教授）、トンネル・地下構造物分野（山口大学大学院・教授）、水環境分野（京都大学防災研究所長・教授）、民間企業関連委員として建設会社（三井住友建設）及び建設コンサルタント（大日本コンサルタント）から各1名を選定し、委員に就任して頂きました。

第1回の会議では、清水康博研究科長から開会のご挨拶が述べられ、当該事業の総括担当者である畠田彰秀教授からこれまでの事業背景、進捗状況や現状及び今後の課題について、説明を行いました。外部評価委員からは、本事業への取組みに対して、極めて高い評価を受けるとともに、派遣日本人学生の確保や、インフラの維持管理に関わるカリキュラム内容の充実、事業経費の削減に伴う今後の事業継続等、様々な観点から忌憚のない意見を頂きました。長崎大学の国際的な取り組みが広く認知・評価されるとともに、日本と中国・韓国との間の互恵関係が適切かつ持続的に構築されることを願っております。

本委員会では、本事業の活動に対して質的な向上を図っていくことを目的とし、平成30年度より外部評価委員会を設置しています。さらに、キャンパス・アジア事業に関わる「教育の質保証」を担保するために、今後は3大学による合同の外部評価委員会の開催も必要不可欠だと考えております。今回の委員の方々から頂戴した貴重なご意見を真摯に受け止め、今後も一層の事業推進に努めて行きたいと思っています。

第8回キャンパス・アジア事業に関する担当者会議及び3大学による合同外部評価委員会が開催されました

2018年8月30日

8月30日、第8回目のキャンパス・アジア事業に関する担当者会議が韓国・ソウルで開催されました。この会議では、主に平成30年度に実施予定のモニタリング+に対応するため、3大学の関係者が集まり、今後必要な資料完成に向け、詳しく協議が行われました。

さらに、今回は3大学の合同外部評価委員会も開催することになりました。山東大学の韓副院長から本事業の背景、これまでの3大学による取り組み状況及び今後の課題等について、説明がなされました。外部評価委員からは、3大学が提供する英語によるインフラ専門科目と大学での実習科目や現場見学の増加、学生の満足度調査の継続性、及び3大学間の教員交流の必要性等について貴重な意見を頂きました。

また、午後から開催された担当者会議では、共通科目「インフラ維持管理工学カリキュラム」の実施や、インナーシップの実施等についても精力的に協議がなされました。さらに、今後は両大学の教員による「渡航前研究指導システム」を確立することがDDプログラムを確実に構築していく上で必要不可欠な方策であることを、3大学の関係者で再確認できました。



単位互換制度に基づく短期留学生9名を受入れました

2018年9月29日

9月4日はあいにく台風来襲の影響が少し残っていたものの、中国・山東大学の留学生5名と韓国・成均館大学校の留学生4名が長崎に到着しました。

9月5日には、工学研究科の彦田彰秀教授がオリエンテーションを行いました。さらに、本事業で雇用している中国及び韓国の国際コーディネーターが、学生たちに、今後、日本において日常生活を送っていく上で、必要な手続きや注意事項などについても詳細に説明致しました。

9月の入学前教育プログラムでは、長崎大学工学研究科の社会環境デザイン工学コースの各インフラ分野の教授たちによる特別講義や、初級レベルの日本語研修に加え、レクレーション授業を実施致しました。さらに、9月中旬には雲仙岳災害記念館での学習や9月下旬には工学部3年生の建設現場見学にも同行し、日本人学生たちとのコミュニケーションはもちろんのこと、日本のインフラ現場見学もできたようです。引き続き、留学生たちが有意義な留学生生活を送れるよう、サポートしていきたいと思っております。

